

婚活における三高神話は崩れたのか

——えひめ結婚支援センターを事例としたイベント・ヒストリー分析——

○成蹊大学
えひめ結婚支援センター
小林盾
能智千恵子

1 目的

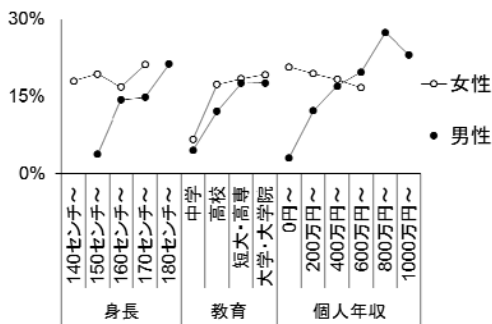
この報告の目的は、人びとが婚活（結婚のための活動）をするとき、どのような要因が結婚を促進したり阻害したりするのかを検討することである。とくに、高身長、高学歴、高収入といういわゆる「三高」が、男性にとって現在でも促進要因となっているのかに着目する。これまで、婚活について事例分析は豊富にあるが、計量分析が乏しかった。

2 方法

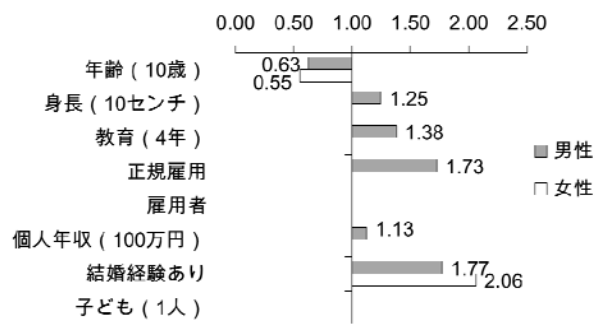
そこで、データとして愛媛県の事業であるえひめ結婚支援センターを対象として、事業開始から約4年間（2011年10月1日～16年2月1日）における登録者全員4,779人（男性2,238人、女性2,541人）の推移を用いる。「結婚による退会のハザード率」を従属変数とし、男女別にイベント・ヒストリー分析をおこなった。

3 結果

分析の結果、（1）男性では、教育・正規雇用・収入という社会経済的地位が高いほど、結婚のチャンスが上昇した。女性では、これら社会経済的地位の効果がなかった。（2）年齢が若いほど、また結婚経験があるほど、男女ともに結婚チャンスが上昇した。（3）他に男性では、身長が高いほど結婚チャンスが上昇した。



結婚による退会者の比率のグループ別比較



イベント・ヒストリー分析のハザード比（有意のみ）

4 結論

以上から、男性では身長と社会経済的地位が、女性では年齢が、結婚のおもな規定要因となっていた。したがって、男性について三高神話は健在であるといえる。実践的には、男女とも婚活をすこしでもはやくスタートさせることが役立つだろう。（この研究は科研基盤研究A「少子化社会におけるライフコース変動の実証的解明」代表小林盾から助成をえています。）

文献

小林盾・能智千恵子、2016、「婚活における結婚の規定要因はなにか——結婚研究の視点から、えひめ結婚支援センターを事例とした量的分析」『理論と方法』30(1).